

4月の定例研究会では、当会顧問の猿渡紀代子さんからご講話をいただきました。

原三溪市民研究会の来し方とこれから

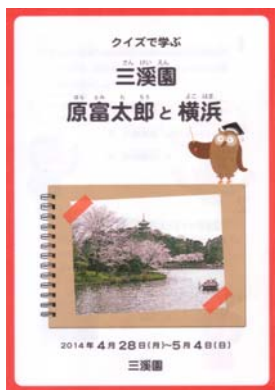
原三溪市民研究会の5周年となる年度を迎え新しい会員も増えている折、当会を立ち上げた猿渡紀代子さんから、会の発足から現在にいたる経緯と、今後は何をどう発信していくかの方向性についてお話を伺いました。

横浜美術館の学芸員として猿渡さんがかつて企画した展覧会のひとつに、2009年の横浜開港150年、原三溪没後70年、横浜美術館開館20周年に合わせた原三溪展がありました。展覧会自体は諸事情により頓挫しましたが、そのプロジェクトの一部であった、原三溪について学ぶ市民研究会を立ち上げることに、猿渡さんは力を注いでいくことになります。その過程で、未刊行の評伝原稿「原三溪翁伝」（藤本實也著）を追いかけていた内海孝先生



猿渡紀代子さん

と出会います。展覧会の計画が白紙となったため予算がなく、配布資料のコピー代すら捻出できない中、会員から会費を集める形で市民研究会は2007年9月にスタート。集まった25名で、3,600頁もある「翁伝」の手稿を読み解いていきました。校正を経て、2009年11月に「翁伝」刊行。2010年から原三溪市民研究会は事務局を美術館から市民へ移して再スタートしました。その後に発行が始まった会報には、美術館の学芸員とは異なる視点からさまざまな原稿が寄せられており、研究会の多面的な活動が表れています。来たる2018年は三溪生誕150周年にあたります。三溪翁が「横浜の本体は市民の精神、市民の元気です」と述べたように、そのときこそ市民研究会の成果を示せるでしょう。



三溪園クイズ出前授業 実施の確認

原三溪市民研究会は4月28日（月）から5月4日（日）まで、三溪園で「クイズで学ぶ 三溪園、原富太郎と横浜」という催し物を実施します。そのため、当日にクイズの配布や解答解説を担当する会員の当番を決めるなどの準備を行いました。

当日は三溪園内苑入口でクイズ（左図）を配布し、三溪記念館ロビーで解答解説の展示と、解説とバッジの配布を行います。